

地方小出版

情報誌

アクセス

毎月1回	1日発行
購読料	定価 150円 (本体 143円)
年間	1,500円(税込み)
振替	00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

ほんや 「出版屋の考え休むににたり」 を上梓して

地方出版社のささやかな格闘の日々

文・福元満治

地方での出版活動が全国的に活発になったのは1970年代だが、それを第1世代とすると、私はそこから独立した第2世代といえる。福岡市での創業が1981年秋だから31年が経ったことになる。編集稼業そのものだと40年になる。そこで、その間自分が何を考えてきたのか、少しは整理しようとして昨年『出版屋の考え休むににたり』を上梓した。今回「地方小」の川上さんから、自著への反響や宣伝を一文記せとスペースを頂いた。有り難いことだが、書き始めると気が重くなった。

気が重いことの原因ははっきりしている。私の本の中身はタイトルにもある通り「休むに似たり」で、同業者にはもちろんだが、これからデジタルの世界で出版を志す若い人にとっても役に立ちそうにないのである。拙著には、出版の経営や企画に関するノウハウもマニュアルもない。ただ私も編集者の端くれだから、客観的にみて少しは「おもしろい」ところがあるだろうと自社から出版した訳である。なんとも横着なことである。

つぶやいて退散

さて、私はツイッターもフェイスブックもやらないが、ネットは時々チェックする。拙著出版後しばらくして、ネットを覗くと、「2チャンネル炎上」とあった。私の文章を引用した「毎日新聞」コラム「憂楽帳」が、攻撃に曝されていたのである。攻撃対象となった文章の核心部分を引用すると、



四六判 / 284頁 / 定価 1,800円+税

「福元さんは書く。デジタル化とネット通信で大量の情報の収集と蓄積が可能になっても、「取捨選択して統一的な意味を与える『編集』という身体的アナログな力が必要になる。逆説的だが、それがなければ思考が深まり定着することもない」と。／新聞屋の端くれもそう思いたい。」

攻撃する側の理屈を要約すると、「お前らの言う『編集』は、恣意的な『偏向』にすぎない。新聞は事実だけを提示すればいい」ということのである。これを新聞に対する「偏見」とみるか「一理あり」と見るかは意見の分かれるところだが、少なくとも2チャンネルの論客たちは、そもそもの出典

である私の著書を読んで批判する気などさらさらないのである。

私はネットで競われるワンフレーズの反射神経的な文章のやり取りが生理的に苦手で、「ここに未来はない」と呪いの言葉を(心の中で)つぶやいて退散するのみである。

同業者から嬉しい評判

ひねくれ者が書いた著書に対して好意的な評も頂いた。「炎の営業日誌」(「本の雑誌」)の杉江由次さんは次のように書いて下さり、嬉しかった。

「出版社ということについて書かれた第1章「私は営業が苦手だ」は、今まで読んできたどんな出版本よりも地に足のついた内容で、同規模の小さな出版社で働く私にとっては、これから仕事をしていく上で礎になるであろう言葉に溢れていた。」さらに「本の雑誌」では、編集長が過分な評を下された。「地方だからという拗ねた言い草もなければ、零細だからといういじけたイメージの押し売りもない。静かに淡々と、そして詩情豊かに一出版社の三十年が描かれてゆくのだ」(「今月の一冊」)

調子に乗ってさらに宣伝すると、昨年末には「週刊ポスト」の「ブックレビュー」欄で紹介が出た。ルポライターの高山文彦氏との対談という形だったが、三時間の取材の後六時間の飲み会となり、楽しかった。対談の内容はそれなりにディープだと思うが時代の感性からは逸脱している。なぜ「週刊ポスト」が拙著に関心を持ち三頁も特集を組んでくれたのか、いまだに狐につままれたような気分だ。

「気分の濁る仕事」だけはしない

現在小社は私を含めて四人、うち二人はパートである。皆二十年前後勤めている。社は是や高い志のようなものはないが、「気分の濁る仕事」だけはし

ないようにしている。

あえて個性と言えば、本業以外に余計なことをするというところだろうか。私はこの三十年近く福岡に事務局のあるNGOの裏方を務めていて、本業に使うエネルギーに劣らぬ時間を費やしている。小社はその分室も兼ねていて、

本業以上に電話がかかってくる。編集長も「ブックオカ」という本業以外のイベントにかなりのエネルギーと時間を注いでいる。

おまけに酒も人並み（あるいはそれ以上）に飲んでいて、週に一度は石風亭なる飲み会を事務所で開き、私と編

集長が隔週交互に料理（最低五品以上）を作っている。これを盆と正月を除いて十五年以上続けている。拙著を読んで頂ければ、地方出版社のささやかな格闘の日々とアホな楽屋を覗いて頂けると思う。

(ふくもと みつじ/石風社代表)

新刊ダイジェスト

※価格は総額（税込）表示です。

『うつと生 —うつを通過し、そして笑った精神科医』 ●大沼 俊著

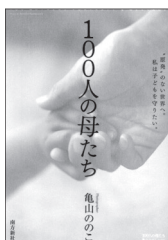


精神科医の著者だが、それまでうつ病の治療で手を焼いたということがなかった。無理をせず薬を飲んで静養しておけばよい…ところが、40歳を前にして自身がうつ病にかかってしまう。驚いたのは、それまで理解していた論文等ではうつの現実を把握できないということだった。手記となる本書において、著者はうつの経過をいくつかの段階に分節化し「未うつ期」「最極期」「一旦の死

の時期」等と独特の名前をつける。そして各段階の症状については説明よりも小説のような描写を多用する。回復期の記述では「偽りハビリ」「無理ハビリ」等とこれまたユニークな名付けをしている。精神科医が書いたうつ病回復記…これ以上のうつ方箋が他にあるだろうか。

◆2100円・A5判・217頁・やどかり出版・埼玉・2012/10刊・ISBN978-4-904185-22-3

『100人の母たち』 ●亀山ののこ著

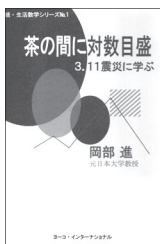


「私たちは原発のない世界を望みます」一見、普通の家族写真集のようにも見えるが、本書は子どもを守りたいという強いメッセージで溢れている。福島原発事故後、水、空気、大地などそれぞれまで当たり前享受していた生活は「放射能」というものを意識せずには手にすることが出来なくなった。自身、双子の母である写真家の著者は事故をきっかけに原発反対の姿勢を写真で示すこと

を決意して、母親と子どものポートレイトを撮り始める。子どもと一緒に母たちの表情はこの上なく優しく輝き、子どもも笑顔を返している。随所に挿入された母たちのメッセージがいつそう写真の持つ意味を際立たせ、100人の思いを伝えてくれる貴重な写真集。

◆1890円・A5判・176頁・南方新社・鹿児島・2012/11刊・ISBN978-4-86124-249-6

『茶の間に対数目盛 3.11震災に学ぶ』 ●岡部 進著

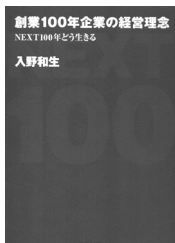


「自然界の掟」に逆らって開発され設置された福島原発の崩壊が、人々に不幸をもたらしている事実を長期データを使って追究する。3.11震災以降、マグニチュード（震源での強さ、規模）や震度（各地でのゆれの大きさ）、大気中の放射線量の単位・マイクロシーベルトといった言葉を頻りに目にするようになった。放射線量についてギガ単位やマイクロ単位も登場し、これらをグラフで見かける

ことも多くなった。そのグラフの縦軸には「対数目盛」が多く使われていることにも気づく。さらに本書の後半では、食糧の安全性、訪日外国人数、家電製品や乗用車の販売数、それら製品の在庫数量といったことに言及する。「生活数学シリーズ」の一冊である。

◆1575円・四六判・265頁・ヨココ・インターナショナル・東京・2012/9刊・ISBN978-4-9905889-3-9

『創業100年企業の経営理念 —NEXT100年どう生きる』 ●入野和生著



世界的大企業でさえも経営に苦しみ時代ですが、この本で紹介されている会社はそんなことは感じさせません。取り上げられているのは岡山県を中心に広島・香川などから26社。いずれも創業100年を超える老舗企業ばかりです。今や多方面で事業展開している会社も、伝統を守り続けている会社もあります。しかし伝統を守っているだけのように見える会社であっても、次の時代へ

と変化し続けています。そして変化するといっても、無定見なものではなく伝統に根ざした経営理念に基づくものです。そしてそれがいかに実践されているか。本書はそのような視点から老舗企業を見つめ、企業経営のあり方を考えます。

◆1680円・A5判・252頁・吉備人出版・岡山・2012/10刊・ISBN978-4-86069-326-8

『文庫はなぜ読まれるのか』 ●岩野裕一著



近代文庫本の嚆矢は、1891（明治24）年の民友社「国民叢書」、1903年の富山房「袖珍名著文庫」、1927年の「岩波文庫」など諸説があるが、著者は1893年の右文社「ニッケル文庫」を上げる。当時としては極めて斬新な、廉価で携帯性（小型本）を以って手軽に知識の普及を図るというコンセプトこそ、現代の文庫本をイメージさせるといふ。爾来、文庫本は幾度かのブームを経て、多

くの読者を獲得してきた。そして今日の電子書籍時代。「ニッケル文庫」にみられるような文庫本の基本的なフォーマットは、電子書籍の特長とよく類似し、そこに衰退する出版産業再生の可能性が備えられていることを示唆する。

◆1890円・A5判・158頁・出版メディアパル・千葉・2012/10刊・ISBN978-4-902251-22-7

地小出版
流通センター

流通センター

ジャンル別
新刊案内

2012年12月1日～31日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は
所在地の北から南の順に並んでいます。

価格は総額（税込）表示です。

【雑誌】

- ◆faura 38 ナチュラリー編 A4 80頁 1000円 ナチュラリー [北海道] 978-4-503-19729-0 12/12
- ◆あおり草子 No. 213 佐藤史隆編 A4 48頁 600円 企画集団ぷりずむ [青森] 978-4-503-19727-6 12/12
- ◆会津人群像 No. 22 阿部隆一編 B5 112頁 1260円 歴史春秋社 [福島] 978-4-89757-793-7 12/12
- ◆GREEN REPORT 396 廣瀬仁編 A4 192頁 2800円 地域環境ネット [埼玉] 978-4-905457-28-2 12/12
- ◆はっぴーママ東京ベイ・千葉版 No. 50 湊美紀枝編 A4 96頁 600円 明光企画 [千葉] 978-4-503-19735-1 12/12
- ◆子どもと読書 397号 親子読書地域文庫全国連絡会編 A5 40頁 550円 親子読書地域文庫全国連絡会 [神奈川] 978-4-900910-97-3 12/12
- ◆かまくら春秋 No. 513

- 田村朗編 B6 90頁 290円 かまくら春秋社 [神奈川] 978-4-7740-0582-9 13/01
- ◆星座 歌とことば No. 64 伊藤玄二郎編 A5 143頁 1050円 かまくら春秋社 [神奈川] 978-4-7740-0583-6 13/01
- ◆AXIS Vol. 161 石橋勝利編 A5 128頁 1800円 アクシス [東京] 978-4-503-19737-5 13/02
- ◆アーカイブズ学研究 No. 17 日本アーカイブズ学会編 A4 178頁 2100円 岩田書院 [東京] 978-4-503-19722-1 12/11
- ◆関東近世史研究 第73号 関東近世史研究会常任委員会編 B5 119頁 2100円 岩田書院 [東京] 978-4-503-19723-8 12/11
- ◆地方史研究 第360号 地方史研究協議会編 A5 104頁 1200円 岩田書院 [東京] 978-4-87294-960-5 12/12
- ◆日本宗教文化史研究 第32号 日本宗教文化史学会編 A5 140頁 2310円 岩田書院 [東京] 978-4-503-19725-2 12/11
- ◆仏事 No. 147 清水祐孝編 A4 104頁 1575円 鎌倉

- 新書 [東京] 978-4-503-19717-7 12/12
- ◆仏事 No. 148 清水祐孝編 A4 120頁 1575円 鎌倉
- 新書 [東京] 978-4-503-19734-4 13/01
- ◆多摩ら・び No. 77 けやき出版編 A4 70頁 500円 けやき出版 [東京] 978-4-87751-486-0 12/12
- ◆同時代 第33号 清水茂編 A5 134頁 1500円 舩燈社 [東京] 978-4-87782-117-3 12/12
- ◆寺門興隆 No. 169 矢澤澄道編 A5 189頁 1155円 興山舎 [東京] 978-4-904139-71-4 12/12
- ◆子どもの文化 No. 502 片岡輝編 A5 48頁 305円 子どもの文化研究所 [東京] 978-4-503-19741-2 13/01
- ◆茶道の研究 No. 685 三徳庵編 A5 84頁 525円 三徳庵 [東京] 978-4-503-19718-4 12/12
- ◆茶道の研究 No. 686 三徳庵編 A5 84頁 525円 三徳庵 [東京] 978-4-503-19742-9 13/01
- ◆調査情報 No. 510 市川哲夫編 255mm×160mm 106頁 790円 TBS編成局 [東京] 978-4-88717-498-6 13/01
- ◆東京かわら版 No. 470 佐藤友美編 204mm×108mm 134頁 420円 東京かわら版 [東京] 978-4-503-19738-2 12/12
- ◆俳句四季 No. 425 松尾正光編 B5 160頁 880円 東京四季出版 [東京]

売行良好書

期間：2012年12月16日～2013年1月15日

【出荷センター扱い】※税込み価格

- (1)『伊藤野枝と代準介』2205円・弦書房 (2)『未来ちゃん』2100円・ナナロク社 (3)『ぐうたら旅日記 恐山・知床をゆく』1365円・寿郎社 (4)『地域に飛び出す公務員ハンドブック』1575円・米子今井書店 (5)『東上線各駅短編集』1260円・まつやま書房 (6)『非原発』3990円・一葉社 (7)『新宿、わたしの解放区』2625円・寿郎社 (8)『居場所を探して』1680円・長崎新聞社 (9)『定本 古本泣き笑い日記』2835円・みずのわ出版 (10)『作っておくと、便利なおかず』1260円・ベターホーム出版局 (11)『ゆりちかへ』1365円・書肆侃侃房 (12)『絵本の庭へ』3780円・東京子ども図書館 (13)『尖閣諸島問題 [領土ナショナリズムの魔力]』1995円・蒼蒼社 (14)『田んぼは野鳥の楽園だ』2100円・弦書房



【三省堂書店神保町本店4F—センター扱い図書】※税込み価格

- (1)『昭和プロレスマガジン 28』1000円・昭和プロレス研究室 (2)『東京かわら版 1月号』420円・東京かわら版 (3)『定本 古本泣き笑い日記』2835円・みずのわ出版 (4)『未来ちゃん』2100円・ナナロク社 (5)『フリースタイル 21』932円・フリースタイル (6)『伊藤野枝と代準介』2205円・弦書房 (7)『おすすめ文庫王国 2013』798円・本の雑誌社 (8)『続・埼玉の城址めぐり』1260円・幹書房 (9)『酒とつまみチャンポン』1470円・酒とつまみ社 (10)『北海道電力<泊原発>の問題は何か』1680円・寿郎社

【ジュンク堂書店池袋店地方出版社の本—センター扱い図書】※税込み価格

- (1)『高尾山・景信山・陣馬山登山詳細図』735円・吉備人出版 (2)『居場所を探して』1680円・長崎新聞社 (3)『ひずみの構造』980円・琉球新報社 (4)『東丹沢登山詳細図 大山・塔ノ岳・丹沢山・蛭ヶ岳 全110コース』900円・吉備人出版 (5)『源泉かけ流しの名湯と味めぐり』1500円・幹書房 (6)『ぐうたら旅日記』1365円・寿郎社 (7)『図書館と電子書籍』2100円・教育出版センター (8)『伊藤野枝と代準介』2205円・弦書房 (9)『宇都宮餃子 公式ガイドブック Vol. 5』630円・下野新聞社 (10)『消えた琉球競馬』1890円・ボーダーインク

以下ホームページでも各種情報提供を行っております。ご利用ください。
本と出版流通のページ：<http://neil.chips.jp/>

トピックス — ★★

▼静岡市美術館で2月11日まで開催予定の『近江巡礼 祈りの至宝展』。「霊峰・比叡山と母なる湖・琵琶湖に恵まれた近江の国（滋賀県）は平安の昔から仏教文化の中心地です。全国五指に入る国宝・重要文化財の指定件数を誇る、琵琶湖湖畔の25ヶ寺6社の名宝76件を、仏教・神道美術と近世絵画の二部構成で一挙公開します。」（静岡市美術館サイト宣伝文より）。この特別展に合わせて戸田書店静岡本店にてフェア開催中です。滋賀県のサンライズ出版が刊行している『近江の祈りと美』『湖北の観音』『湖北のホトケたち』『近江のかくれ里』『日吉山王祭』『近江中山道』『近江観音の道』『12歳から学ぶ滋賀県の歴史』等々特別展の内容に沿った書籍を展開しています。2階美術館側入口すぐのギャラリーにて。

▼去る1月17日神楽坂の日本出版クラブ会館にて第28回祥会出版文化賞の贈呈式がありました。『日本の石炭産業遺産』等が評価された福岡の弦書房さんのほか、当センターと取引関係はありませんが、『フクシマ・ゴーストタウン』『見捨てられた命を救え！』等の福島第一原発事故を扱った本が評価された社会批評社さんが特別賞を受賞。また本賞に、『日本歴史災害事典』が注目された吉川弘文館さん、新聞社学芸文化賞に『3.11 惨劇の記録-71人が体感した大津波・原発・巨大地震』の新曜社さんが選ばれました。

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までFAXでご連絡ください。


◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせていただきます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。（メール便の到着は、発送してから3～4日かかります。）お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合わせ下さいませ。

◎なお書籍お買上総計（税抜き価格）が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせていただきます。

★地方・小出版流通センター

FAX：03-3235-6182

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。



三省堂書店

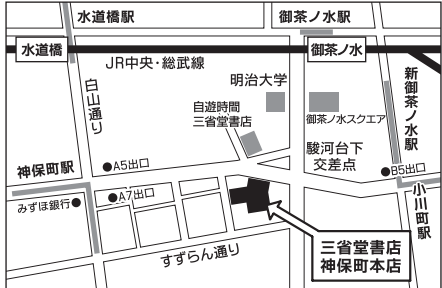
BOOKS SANSEIDO

神保町本店 4階
地方出版・小出版物フロア

営業時間 10:00 AM～8:00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. <http://www.books-sanseido.co.jp>

営業の
ごあんない

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。



水道橋駅、御茶ノ水駅、JR中央・総武線、白山通り、神保町駅、みずほ銀行、A5出口、A7出口、A5出口、御茶ノ水駅、新御茶ノ水駅、御茶ノ水スクエア、駿河台下交差点、BS出口、小川町駅、三省堂書店 神保町本店、すずらん通り